

西海地区 中学生以上住民アンケート

結果報告書

平成 30 年 1 月 12 日

目次

1	アンケートの概要	1
(1)	アンケート調査の趣旨	1
(2)	実施主体と調査対象、調査時期	1
(3)	配布数および回収数	1
2	結果報告	2
(1)	回答者の年齢・性別・出身・居住地域	2
(2)	回答者の職業と収入満足度	3
(3)	コンピュータ・スマホ・携帯電話利用状況	5
(4)	地域行事・活動に対する認識	6
(5)	日常生活での不安感、困りごと	10
(6)	地域内の意見、交流の現状をどう見ているか	11
(7)	若者世代が今後も西海地区に住み続けるか	12
(8)	西海地区の魅力、自慢できる点	14
(9)	地域プランに対する関心度	15
(10)	西海地区の活性化についての自由回答	15
3	まとめと考察	16
(1)	西海地区における地域生活状況のまとめ	16
(2)	西海地区の活動についての取り組みと課題	16

西海地区自治振興協議会

事務局：西海地区公民館

〒949-0044 糸魚川市大字水保 1845

025-552-0268 nishiko@bz04.plala.or.jp

1 アンケートの概要

(1) アンケート調査の趣旨

本アンケートは、西海地区住民が地域の生活や将来のこと、現在行っている地域活動（海谷まつり、盆踊り、運動会、さいの神など）についてどのように感じているのかを調査し、組織や行事の見直しを含めた今後の地域づくりの参考にすることを目的として実施した。

(2) 実施主体と調査対象、調査時期

本アンケートは、自治振興協議会および、これを母体とした地域づくりプラン実行委員会により実施した。

アンケートの対象は、上記(1)の趣旨のもと、西海地区の中中学生以上の全員とした。

また、アンケート票は、各区長、班長のご協力のもと、平成 29 年 10 月に配布し翌月にかけて回収した。

(3) 配布数および回収数

配布数は 1,868 部であり、西海地区全域の 18 歳以上の住民に 1 部ずつ配布した。

有効回答数は 1,426 部で、76%の非常に高い回収率となった。

表 1 地区ごとのアンケート票配布数と回収数

地区名	配布数	回収数	回収率
平牛	898	698	78
羽生	347	287	83
北山	77	57	74
水保	100	81	81
成沢	40	29	73
稲坂	63	52	83
真光寺	31	21	68
田中	47	27	57
川島	21	20	95
中条	34	19	56
道平	37	32	86
釜沢	43	32	74
真木	24	11	46
井沢	28	20	71
栗倉	24	7	29
来海沢	41	25	61
市野々	7	3	43
御前山	6	5	83
合計	1868	1426	76

2 結果報告

本章では、アンケートの各問の集計により、西海地区住民の生活状況や地域をどう見ているか、行事への評価などを見ていく。

※各質問についての表・グラフ、自由回答の詳細については、別紙資料編を参照のこと。

(1) 回答者の年齢・性別・出身・居住地域

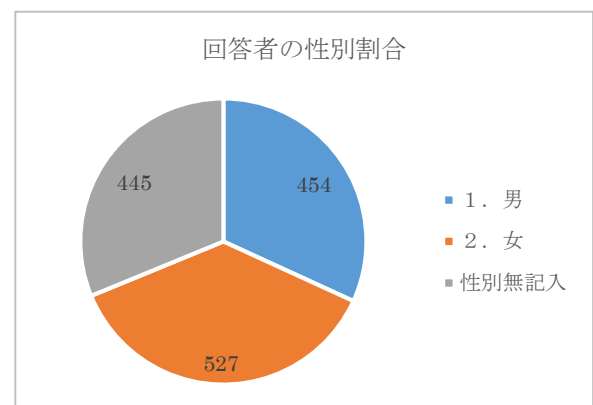
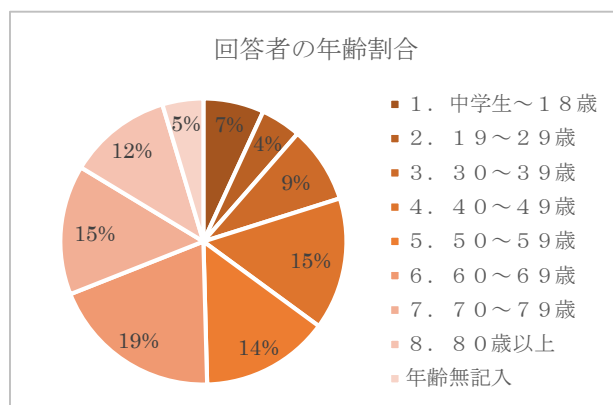
まずはアンケート回答者構成の全体像について見ていく。

① 回答者の年齢性別（問１：単回答）

年齢、性別は以下の通りである。

Q01-年齢	1. 男	2. 女	性別無記入	総計
1. 中学生～18歳	24	41	33	98
2. 19～29歳	24	19	22	65
3. 30～39歳	30	28	66	124
4. 40～49歳	62	81	70	213
5. 50～59歳	84	79	44	207
6. 60～69歳	90	95	92	277
7. 70～79歳	80	86	43	209
8. 80歳以上	54	95	18	167
年齢無記入	6	3	57	66
総計	454	527	445	1426

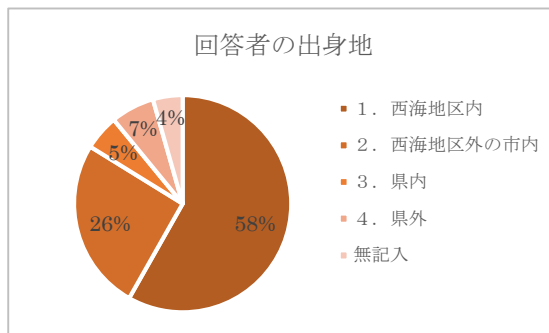
※性別については「無記入」が多い印象を受ける。これは同じ問１の中に年齢と性別を選択する形としたため、記入漏れが多かったことが主な理由と思われる。



② 回答者の出身地（問２：単回答）

西海地区以外を出身地とされている方が約４割となっている。

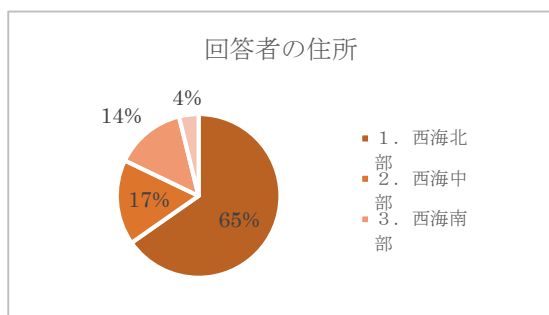
Q3 出身地	人数	割合
1. 西海地区内	830	58.20%
2. 西海地区外の市内	365	25.60%
3. 県内	75	5.26%
4. 県外	93	6.52%
無記入	63	4.42%
総計	1426	100.00%



③ 回答者の現在の居住地区（問３：単回答）

西海北部（平牛・羽生）が回答数全体の６５％を占めている。

Q4 住所	人数	割合
1. 西海北部	931	65.29%
2. 西海中部	240	16.83%
3. 西海南部	200	14.03%
無記入・無効	55	3.86%
総計	1426	100.00%



(2) 回答者の職業と収入満足度

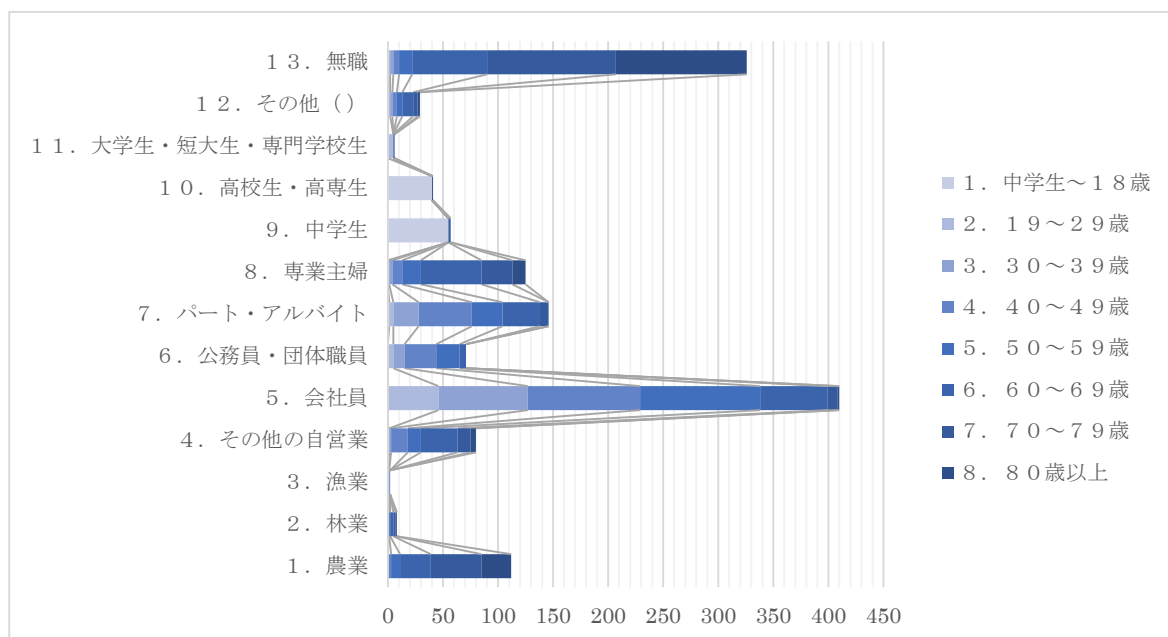
① 回答者の職業（問４：複数回答）

回答者の職業を見ていく。会社員（２０代～６０代）および無職（７０代～）の方が多い。

農業従事者は、ほとんど（９割）が６０歳以上となっている。

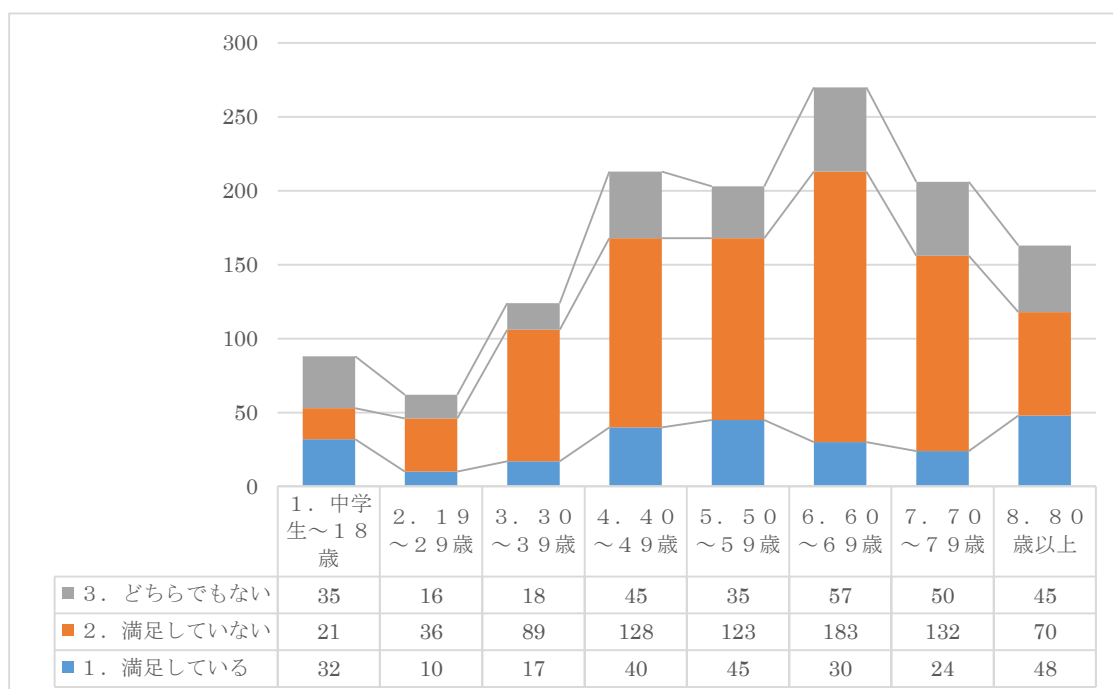
職業	1. 中学生 ～１８歳	2. １９ ～２９歳	3. ３０ ～３９歳	4. ４０ ～４９歳	5. ５０ ～５９歳	6. ６０ ～６９歳	7. ７０ ～７９歳	8. ８０ 歳以上	年齢 無記入	総計
1. 農業	0	0	0	3	8	28	46	27	5	117
2. 林業	0	0	0	1	1	3	2	1	0	8
3. 漁業	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
4. その他の自営業	0	1	2	15	12	33	12	5	1	81
5. 会社員	0	46	81	102	109	61	9	2	1	411
6. 公務員・団体職員	0	5	10	29	21	6	0	0	1	72
7. パート・アルバイト	1	4	23	48	28	34	8	0	1	147
8. 専業主婦	0	1	3	9	17	55	28	12	0	125
9. 中学生	55	0	0	0	0	0	2	0	0	57
10. 高校生・高専生	40	0	0	0	0	0	0	1	0	41
11. 大学生・短大生・専門学校生	0	5	0	0	0	0	1	0	0	6
12. その他（）	0	2	2	4	5	10	4	2	0	29
13. 無職	0	2	3	5	12	68	117	119	5	331
	96	66	125	217	213	298	229	169	14	1427

また、3 番目に多い「パート・アルバイト」は20代～60代までの女性が多い。現役世代といわれるこの年代の男性、女性は「会社員」「パート・アルバイト」が中心となっている。



② 収入満足度（問5：単回答）

19歳以上の世代では、「満足している」人が非常に少ない結果となっている。



(3) コンピュータ・スマホ・携帯電話利用状況

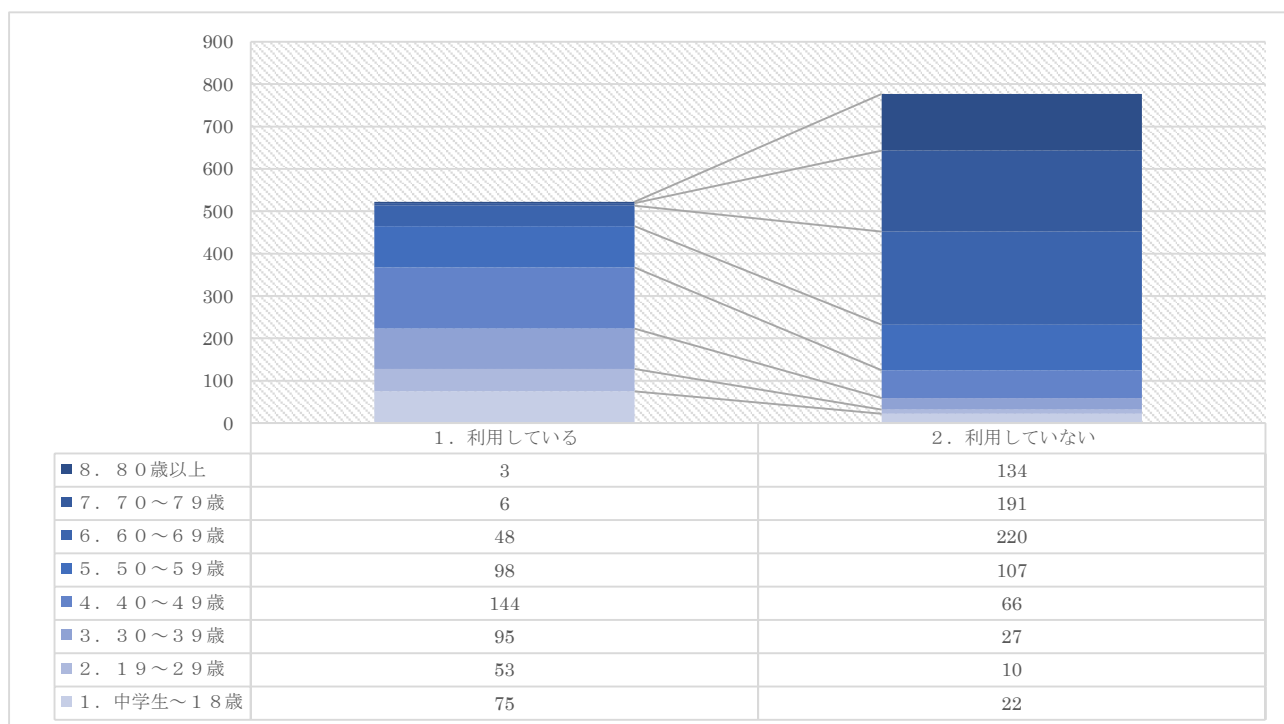
西海地区における、ソーシャルネットワーキング※（SNS）の利用状況について見る。

※ソーシャルネットワーキング…インターネット上で社会的ネットワークを構築可能にするサービスである。（ウィキペディアより）

① SNS 利用状況（問 6：単回答）

若い世代を中心に利用している方が多数を占める。

一方、60 代以上の方は利用していない方の割合が多くを占めるようになる。

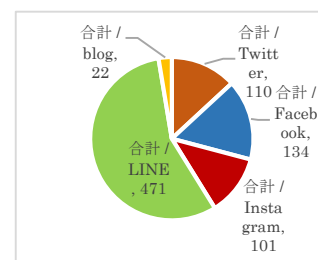


② SNS 利用種類（問 6：複数回答）

LINE 利用者が多い。地域内の情報連携のツールとして有力な選択肢と思われる。

また、現在インスタグラムの人気が高まっているため、今後西海地区内でも利用が増えていく可能性がある。

Q6-SNS利用種類	Twitter	Facebook	Instagram	LINE	blog
1. 中学生～18歳	39	9	24	71	2
2. 19～29歳	27	17	19	46	2
3. 30～39歳	17	38	26	84	4
4. 40～49歳	17	38	20	130	12
5. 50～59歳	8	22	11	89	1
6. 60～69歳	0	9	1	43	1
7. 70～79歳	1	1	0	4	0
8. 80歳以上	0	0	0	1	0
年齢無記入	1	0	0	3	0
総計	110	134	101	471	22



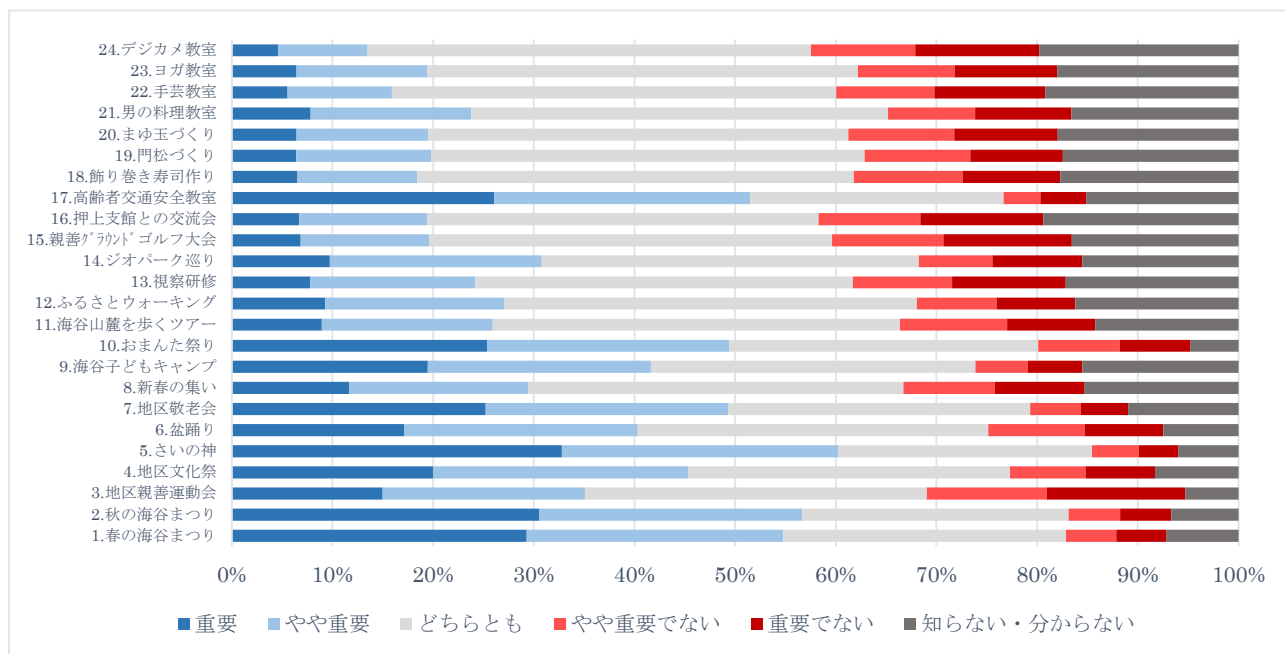
(4) 地域行事・活動に対する認識

各行事・活動について「重要度」「魅力度」の観点でどう感じているか。全体を俯瞰してみる。

※各行事ごとの詳細集計については、別紙資料編を参照のこと

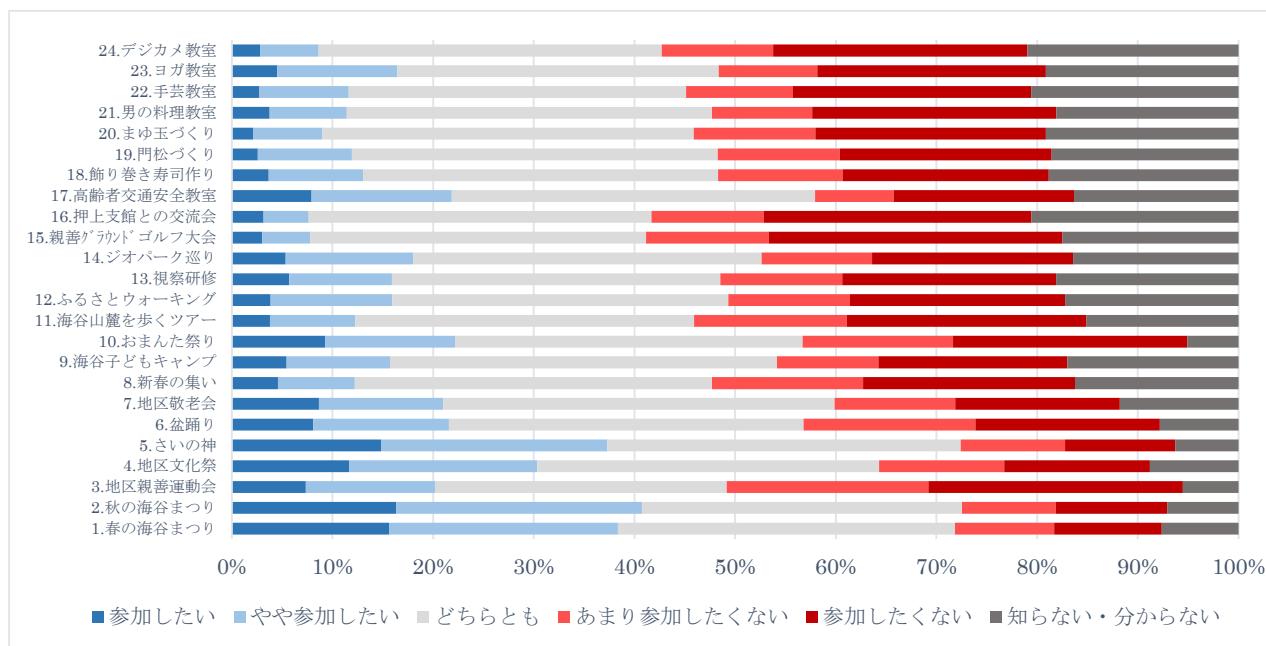
① 行事への「重要度」(問7：単回答)

春秋の海谷まつり、さいの神、交通安全教室が最も重要と認識されている。



② 行事への「魅力度」(参加意欲)(問7：単回答)

全体的に、重要度と比較して参加意欲は低くなっている。その中においても、春秋の海谷まつり、さいの神は高い参加意欲をみることができる。



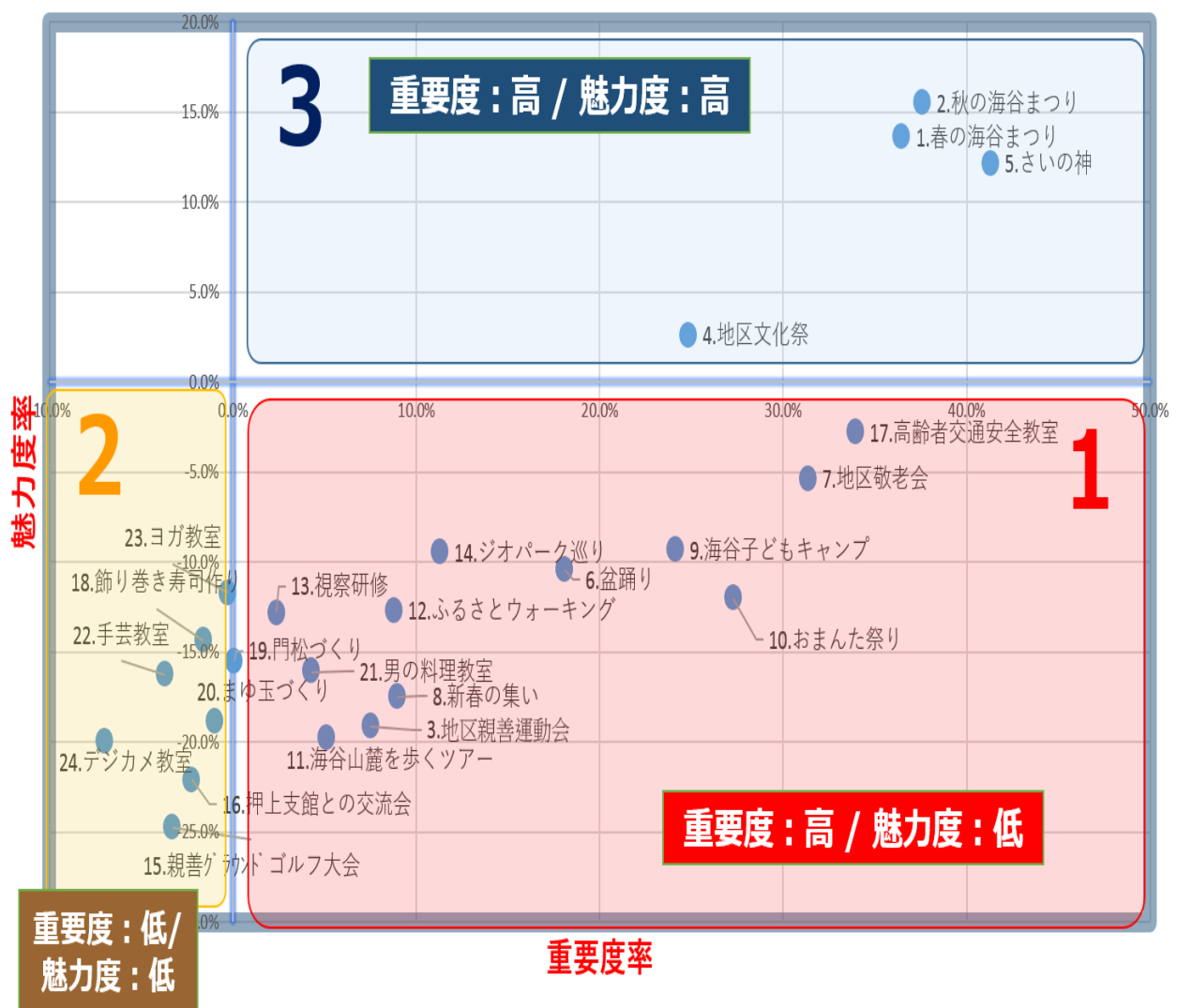
③ 重要度・魅力度からみた散布図

エリア1（下図の赤色）は、「重要度は高いが魅力は低い」と思われている行事、活動であり、最も検討が必要だと考えられる。ただし、「17. 高齢者交通安全教室」や「7. 地区敬老会」は対象が高齢者である。そのため、若い世代は「参加したくない」を選択する傾向があり、魅力度が低くなってしまっている可能性がある。このように参加できる世代が偏る行事・活動については、一概に「重要度は高いが魅力は低い」と判断できないと思われる。

エリア2（下図の黄色）は、「重要度も魅力も低い」と思われている行事・活動である。この中には趣味的なものが多く（ヨガ教室、デジカメ教室、手芸教室等）、興味のある方には「重要かつ魅力あり」となるものであり、評価は慎重に行う必要がある。

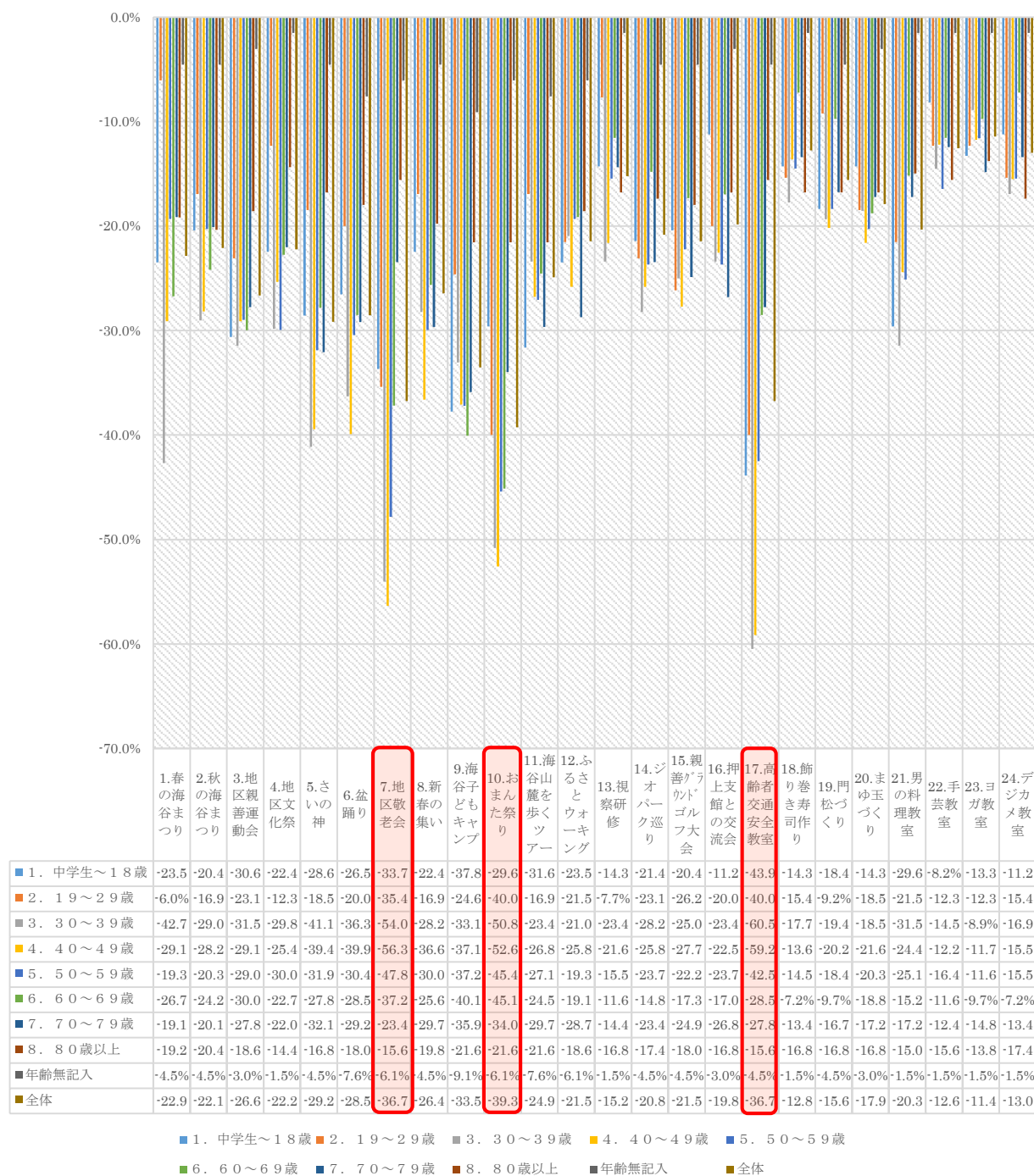
エリア3（下図の青色）は、重要度、魅力共に高いと評価されている行事・活動である。これらは一般的に今後とも大切に維持していくべきものと判断できる。

行事の重要度・魅力度についての住民意識評価



④ 重要度・魅力度からみた年代別評価

下の図は、各行事・活動に対する年代別の評価である。満足度割合から重要度割合を引いた値を表している。マイナス値が高いほど、重要度と満足度の差が大きい（主に重要だと思うが参加意欲は低い）ものとなる。



最もマイナス値が高いのは「7.地区敬老会」「10.おまんた祭り」「17.高齢者交通安全教室」となっている。重要だと考えられているが、「参加したくない」もしくは「参加したくてもできない」ものが高いマイナス値となる。なぜ参加できないのか、を調査していくことが非常に重要であり、今後の地区行事の再検討における判断材料になりうるだろう。

⑤ 既存行事、活動の改善点や新たな取り組み等（問 8：自由回答）

一部を抜粋した。（181件あり。詳細は別紙資料編を参照のこと）

傾向としては、若い世代は「集まれる場」を求めている。上の世代にいくにつれて、行事実施の役員負担などの運営課題の指摘が多い。70代以降では、行事に参加したくても移動手段や体力的な難しさを訴える回答が多くなっている。

また目立ったテーマとして、運動会の時期や実施そのものについての問題点を指摘したコメントが全世代にわたって見受けられた。今後の検討課題とすべきと思われる。

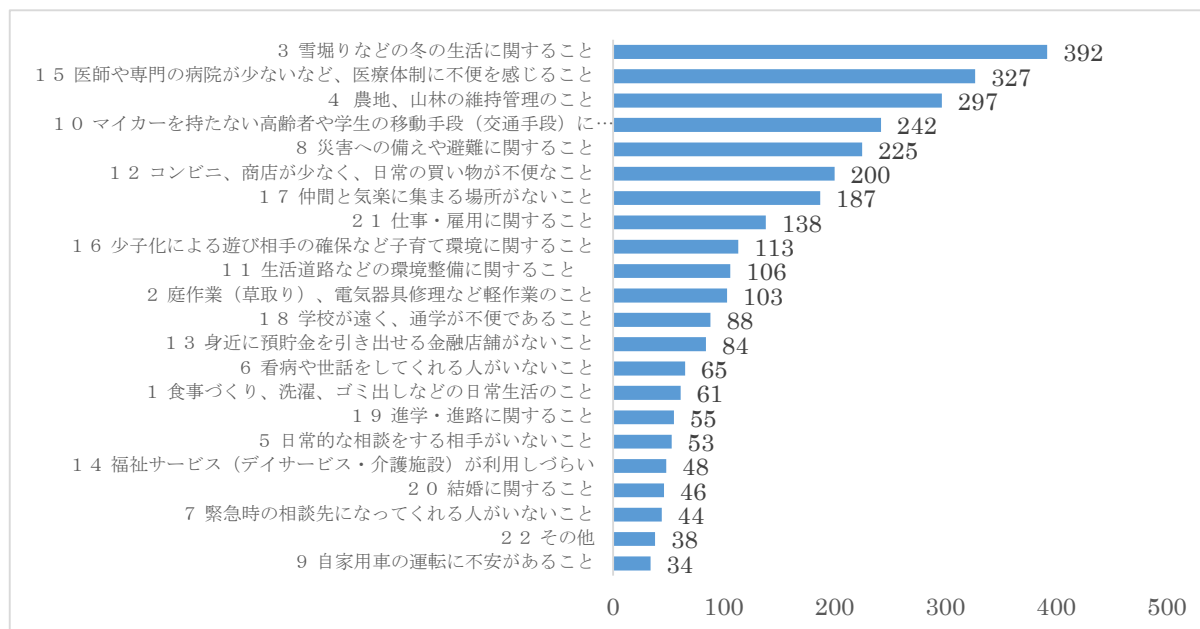
1. 中学生～18歳	夏の花火大会などをやってほしい。 みんなが参加しやすい行事にしてほしい。 分からない行事があったので、その日より1週間前にチラシを配る。 海谷まつりの場所が遠い。雪上トレッキングが危ないと思う。
2. 19～29歳	ギネスに挑戦する。 今回の秋の海谷祭りのように、小学生が出し物をたくさんして、小学生その家族に大勢参加してもらおう。（春の海谷や、運動会等、あとキャンプも） 飲み会が多すぎます。若者の集いがあまりない。
3. 30～39歳	若者が参加しやすい行事がない。 西海ならではの（西海らしい？）目玉の特産品があればよいと思う。 子供が土日に参加できるイベントがあると嬉しいです。 地区親善運動会は、他の地区との合併方式にし、運動会を運営してみては？ 運動会実施の時期（夏→秋）。海谷まつり（遠い）場所。 組織の会員固定化。幅広い意見を取り入れてほしい。
4. 40～49歳	運動会の時期検討（夏はやめてほしい）。運動会の廃止。 いくつかの行事・教室は期間限定ではなく、毎月やってほしい。 行事に関わっている人が限られていて、いくつもの行事を重複していて、負担が大きい。もっといろんな人に関わってもらうか、行事を厳選して減らすべき。☆子供向けやお年寄り向けの行事が多いので、主婦層向けの企画があれば、交流の場にもなるのでは。
5. 50～59歳	運動会の再検討・時期含め。 役員の負担が大きい。班長の集金回数など実務の内容見直し。 行事の統合（文化祭は小学校と。運動会は他地区と一緒に。等）の検討が必要。（役員負担と関連）
6. 60～69歳	運動会の時期検討必要。 若者、よそ者も参加しやすい行事の工夫。 役の負担軽減。既存行事の内容見直し。
7. 70～79歳	行事に参加したいが移動手段がない。参加手段の工夫必要。 各行事の内容再検討。囲碁、将棋、カラオケ、卓球等あたらしい教室要望。
8. 80歳以上	獣害対策。 老人が楽しめる行事、教室、気楽に立ち寄り場がほしい。 行事に参加したいが年で難しい。

(5) 日常生活での不安感、困りごと

① 日常生活での不安感、困りごと（問9：複数回答）

糸魚川の中山間地の代表的な課題である「雪」がここでも一番の困りごととなっている。

また、他地区から見ると西海地区は他の中山間地と比べて市街地に近く、病院や福祉施設も多いと思われるが、「医療体制」「買い物不自由」も上位に上がっている。



② 世代別の困りごとと上位

世代別の上位5つは以下の通りである。すべての世代で雪が課題だと考えられていることがわかる。30代以上になると医療体制への不安、50代から上の世代では農地山林管理についての不安が上位に現れる。

10, 20代 上位5位	人数
1 2 コンビニ、商店が少なく、日常の買い物が不便なこと	46
1 7 仲間と気楽に集まる場所がないこと	45
3 雪堀りなどの冬の生活に関する事	32
1 8 学校が遠く、通学が不便であること	27
1 0 マイカーを持たない高齢者や学生の移動手段（交通手段）に関する事	15

30, 40代 上位5位	人数
1 5 医師や専門の病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる事	95
3 雪堀りなどの冬の生活に関する事	92
1 0 マイカーを持たない高齢者や学生の移動手段（交通手段）に関する事	78
8 災害への備えや避難に関する事	64
1 6 少子化による遊び相手の確保など子育て環境に関する事	61

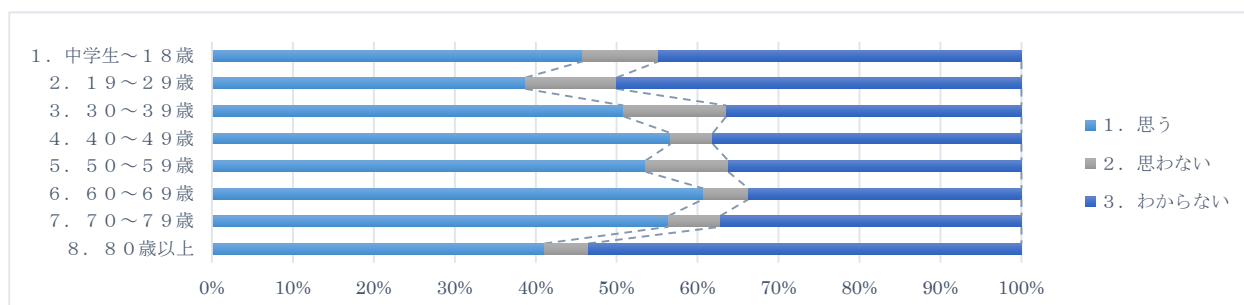
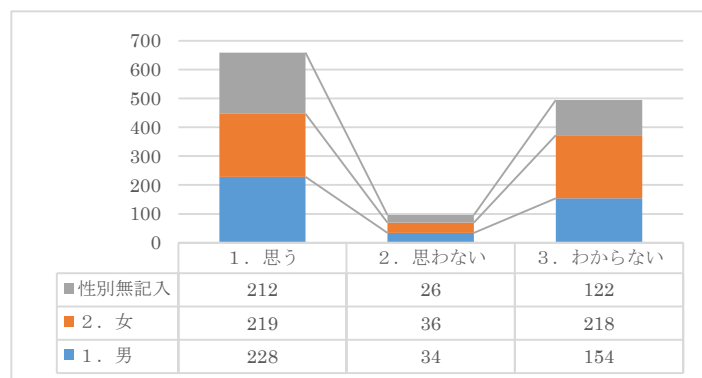
50, 60代 上位5位	人数
4 農地、山林の維持管理のこと	158
3 雪堀りなどの冬の生活に関する事	153
1 5 医師や専門の病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる事	143
8 災害への備えや避難に関する事	99
1 0 マイカーを持たない高齢者や学生の移動手段（交通手段）に関する事	82

70, 80代 上位5位	人数
3 雪堀りなどの冬の生活に関する事	113
4 農地、山林の維持管理のこと	86
1 5 医師や専門の病院が少ないなど、医療体制に不便を感じる事	80
1 0 マイカーを持たない高齢者や学生の移動手段（交通手段）に関する事	65
8 災害への備えや避難に関する事	48

(6) 地域内の意見、交流の現状をどう見ているか

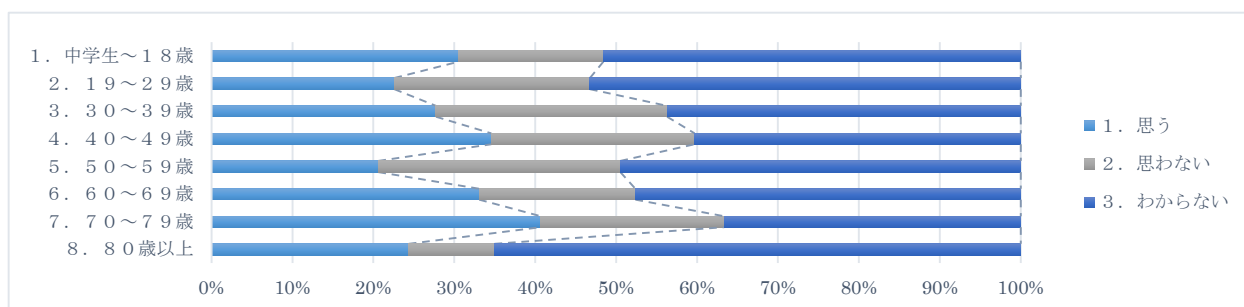
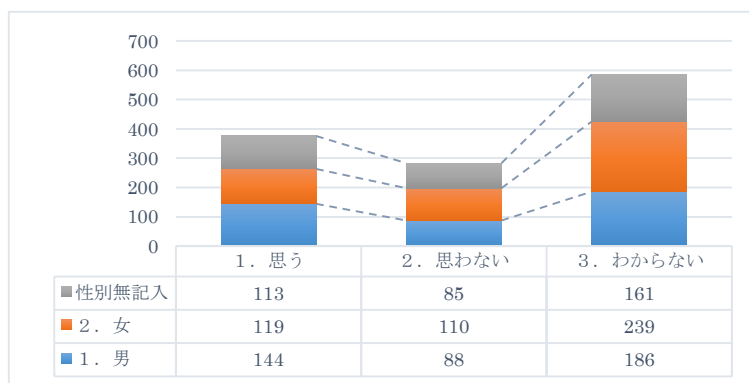
① もっと女性や若者の声を反映させるべきか（問１０：単回答）

「思う」という声が圧倒的多数を占めている。



② 地域内交流をもっと盛んに行っていきたいか（問１１：単回答）

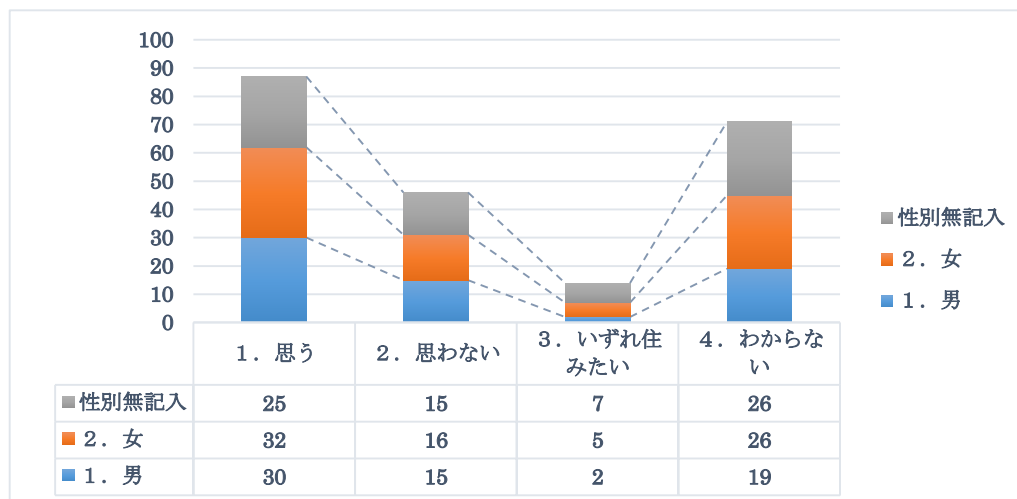
「思う」「思わない」の差が小さい。特に若者層では「思わない」が多い世代もある。



(7) 若者世代が今後も西海地区に住み続けるか

① 若い世代に「今後も住み続けたいですか？」（問１２：単回答）

「思う」が「思わない」を上回っている。「いずれ住みたい」との回答では、その理由として「外で学んで地元を持ち帰りたい」といった回答が記載されており、素晴らしい郷土愛が感じられる。

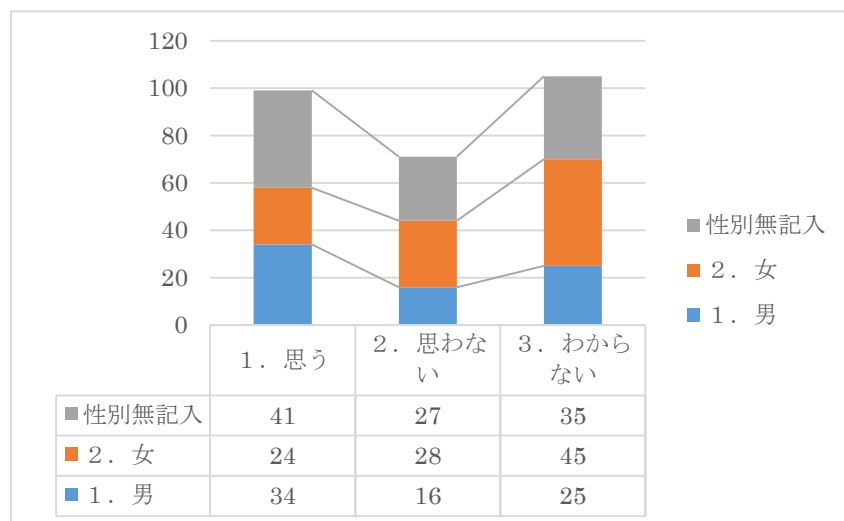


コメント一部抜粋（８６件あり。詳細は別紙資料編を参照のこと）

1. 思う	自然に親しむことができるから。地域の人と交流ができ、助け合いがあるから。 景色がきれい。空気がきれい。水がきれい。とにかくきれい。 ふるさととは大事だと思うから 生まれ育った場所だから
2. 思わない	大学に行くから。職場がないから 都会などさかえているところに行きたい。 都会にあこがれているため、都会に住みたい。夢を叶えたい。
3. いずれ住みたい	将来のために、他の県でたくさん学んできてから、地元に戻って役に立ちたいから。 広い世界を見て、都会のものを西海へ取り込みたいから。
4. わからない	まだ深く考えたことがない。 今はまだきめたくない 将来どうなっているかわからないから 将来がしっかり決まっていないから。

② 18歳以下のお子さんを持つ方に「子供に住んでもらいたいですか？」 (問13：単回答)

「思う」「思わない」「わからない」でそれほど大きな差は見られないが、その理由から見えてくるものは、西海地区の現状の魅力と課題そのものであり、若者が地域に残るための非常に大きな示唆に富んでいる。



コメント一部抜粋（８８件あり。詳細は別紙資料編を参照のこと）

1. 思う	育った地域なのだから。でも… 将来的には、自然に囲まれ、美味しい食べ物もあるため。 人ごみの中での仕事なので、せめて家庭は自然の中で暮らしてほしい（通勤に不便であるが）。 西海の昔ながらの交流が心を豊かにし人とつながりを持てるから。 進学や就職で一度はこの地区を離れてしまっても、また戻ってきてほしいと思います。 人がいなくなると地域を存続できなくなるため
2. 思わない	これから子育てをしていくうえで、無理があります。なので、将来のことを考えたら、ここには住んでほしくないですね。 糸魚川に働き口がない！！自然しかとりえがない！！不景気にともない人間関係（近所づきあい）がなくなっている。 路線バスも頻回になく、どこへ行くにも親が車で送迎するという環境（自身で免許を取得すれば別だが…）は不便。糸魚川市内にも就職先が少ないイメージ。若い子が遊ぶ所、買い物するお店もなく、時間をもてあましそう。もっと色々なことを経験してほしい。 もっといろんな環境で自分に合った生活をしてもらいたいから。（自立する心も身についてほしいので） 子には自分のやりたいようにやってもらいたいから。子本意。 住んでほしいと思いますが、本人の自由なので何とも言えません。 自分のしたいことが、この地区で出来るのであればのこればいいし、なければのこる必要もない。
3. わからない	子どもの自主性を尊重したい 子どもが自分で考えて選んで決めるため、なんともいえない。 住んでもらいたい気持ちはありますが、仕事はあるのか？医療体制を思うと親の考えを押し付けることができません。 子供の生きたい様に生きてほしい為 市外、県外での生活、経験は必要！！ 子どもの意見を尊重したい。 子供達には外の世界も経験する必要があると思う。西海は良い所ではあるが、”井の中の蛙”になって欲しくない。

(8) 西海地区の魅力、自慢できる点

ここでは西海地区の魅力を、西海地区以外に居住経験がある方向け（自由記述回答）と、配布対象の方全員向け（複数選択回答）に問うた結果を見る。

① 西海地区以外の居住経験者向けに西海地区の魅力を聞く（問１４：自由回答）

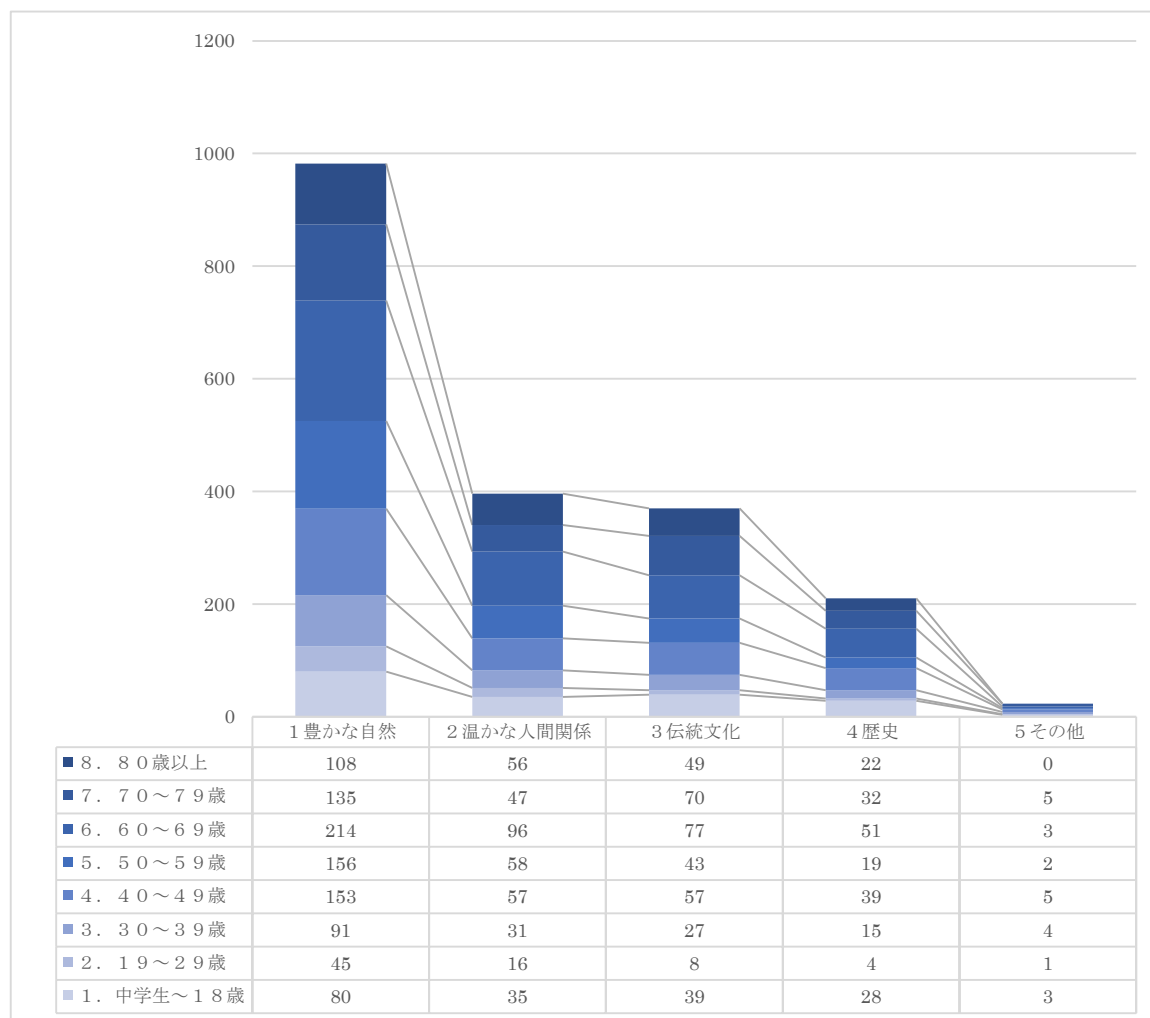
２８４件の回答があり、自由回答としては非常に多い割合である。それだけ西海地区には大きな魅力があるということだと思われる。

傾向としては「(海谷、海川等をはじめとする) 自然の豊かさ、美しさ」「食べ物のおいしさ」「人の温かさ、絆の強さ」の３つが圧倒的に多い。

※詳細は別紙資料編を参照のこと。

② 全員対象に選択肢で西海地区の魅力を聞く（問１５：複数回答）

問１５では複数選択形式での問いとなっている。ここでも全世代にわたって「豊かな自然」が非常に高い割合で選ばれていることがわかる。

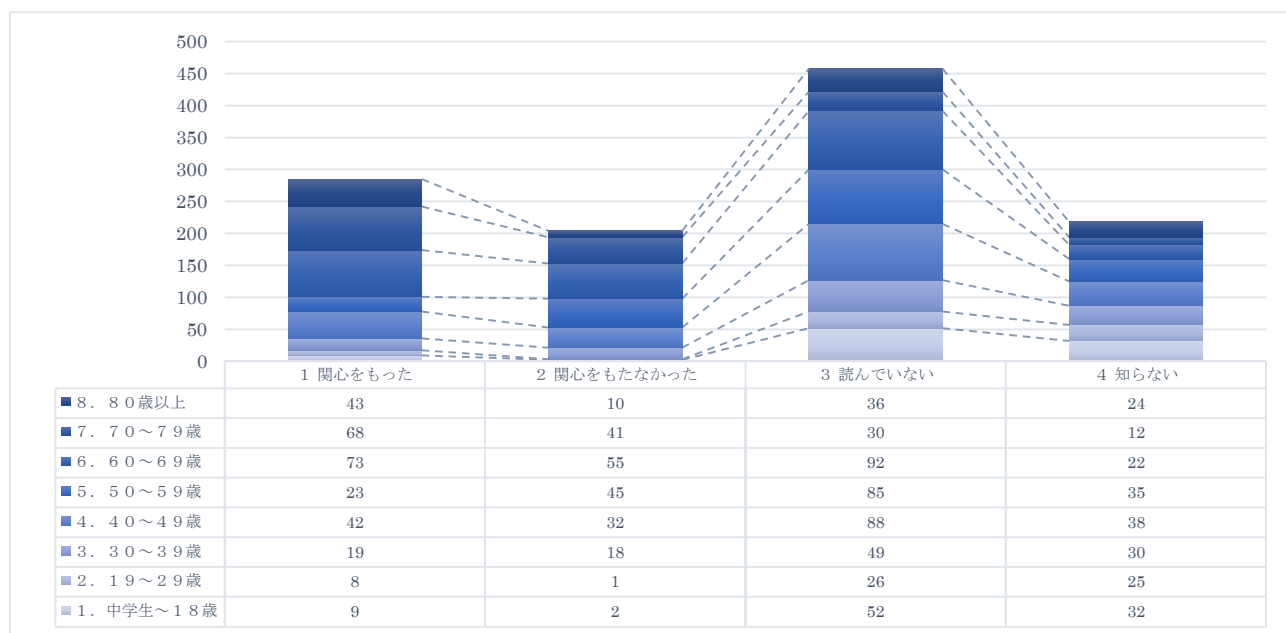


(9) 地域プランに対する関心度

① 「西海地区 地域づくりプラン」のパンフレット感想（問１６：単回答）

プランの内容を読んで関心を持ったかどうかを問う設問であったが、「読んでいない」「知らない」という方が半数以上という結果であった。

特に 10 代、20 代の世代は圧倒的に「読んでいない」「知らない」割合が多く、各世帯への配布物を若い世代にも見てもらう工夫、学校での地域学習の一環で触れてもらうなどの試みが必要だと思われる。



(10) 西海地区の活性化についての自由回答

① 西海地区の活性化全般について（問１７：自由回答）

非常に多岐にわたる貴重な意見が多い。ここでは、年代別に多かった内容を抜粋した。

（１７７件あり。詳細は別紙資料編を参照のこと）。

1. 中学生～18歳	交流を増やす。どの世代も楽しめる施設・お店・行事。交通手段改善。等
2. 19～29歳	もっと若者向けの行事。若者が興味をもつ施設、活動。
3. 30～39歳	子どもたちのための環境整備（施設、行事、防犯）。組織改善、見直し。
4. 40～49歳	集客できる施設、温泉。特産品。空き家活用。 忙しくて参加できない。
5. 50～59歳	商業施設、温泉。バスなどの移動手段改善。 既存施設の活用。集落維持。会社誘致（仕事先作り）
6. 60～69歳	活動中心メンバーがいつも同じ、見直し必要。話し合いの場。これから参加したい。
7. 70～79歳	移住促進。結婚促進。若い人が来られる対策。
8. 80歳以上	若い人が戻ってくる、増える対策。若い人と高齢者の交流の場。青年団。老人会のような高齢者集まる場増。

3 まとめと考察

(1) 西海地区における地域生活状況のまとめ

今回のアンケート集計結果を順に見ていく。まず西海地区の住民の職業構成であるが、会社員が最も多く、全体の3割を占めている。一方、西海地区でこれまで重要な産業であった農業は8%ほどまで減少しており、年齢層も60歳以上が大多数となっている。2割を占める無職層は実は地域活動の貴重な戦力である。西海地区にとって望ましい職業バランス等を再考するきっかけとなる調査結果であろう。

ソーシャルネットワークキングの利用は、全国平均(総務省 H27 年白書)に比べて各世代で利用率が大幅に高く、これからの地区内情報連携、地区外への情報発信における明るい要素だと思われる。これは活かしていく必要がある。

既存行事・活動についての住民の評価調査では、「重要度」認識に比べて、「魅力度(参加意欲)」が全体的に低いことが見られた。具体的に「どの行事がどう評価されているか」が今回の調査で明確になったことは大きな収穫である。

日常生活での不安・困りごとでは全世代において「雪」「医療」「農地山林管理」「災害対策」「生活移動手段」があげられた。今後の活動指針としての重要な情報といえる。

若い世代が西海に住み続けたいと思っているか、西海の魅力は何か、といった問いの結果は、西海地域にとって明るく、また明確な活動指針を示してくれている。子どもたちの郷土愛、大人顔負けの状況把握と行動意志は、西海地域にとって大きな宝であろう。そして、大多数の住民が西海の「自然」「人」「伝統」を誇りに思っていることを再認識できるものであった。

地域プランへの関心については、「読んでいない」「知らない」割合が半数を超えており、情報共有の課題に改めて気づききっかけになった。この点を解決することが、実は今後の地域活動における突破口になる可能性が高いと考えられる。

(2) 西海地区の活動についての取り組みと課題

今回のアンケート結果は、地域プランの内容・構成が、今の西海地区の状況・課題解決にうまくマッチしていることを再確認できるものである。より明確になったことの一つは、子ども世代(中学生以上～18歳以下)に地域づくりにもっと参加してもらうことではないか。大人が考えている以上に子どもたちは地域をよく見て、考え、理解している。地域活動の強力な戦力となる可能性は高い。

組織や行事の見直しの重要性(そして難しさ)も今回の結果でより明確になったと思われる。自由回答の問8、問14、問17では、多くの示唆に富んだ指摘がある。是非原文にも目を通していただきたい。

西海地区にとって、郷土愛に溢れた多くの「人」が財産であることに改めて気づかされ、これからの地域活動がより良い方向にいくための貴重な「きっかけ」が今回のアンケートで作られたと感じた。

このアンケート結果を活用し、地域住民が一丸となってより良い西海地区をつくっていきましょう。

皆さまのご協力に心より感謝いたします。

以上

西海地区自治振興協議会

事務局：西海地区公民館

〒949-0044 糸魚川市大字水保 1845

025-552-0268 nishiko@bz04.plala.or.jp